

---

# LAST RESORT

Zito

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

LAST RESORT

### 【Zコード】

N1017F

### 【作者名】

Zitto

### 【あらすじ】

だらけきつた19歳の音楽馬鹿。ある口ライブで知り合った女の  
子が…？まあ、ありがちな青春群像劇。多少の脚色や設定変更を除  
けばノンフィクションです。

## 丁寧な書類(前書き)

かなり稚拙です。

「指導」鞭撻のほどよきごくお願い申し上げます（――）三

## Tuning

市街地から電車で20分程に位置する住宅街の一角にある公園に1人の少年がいた。

ブランコに乗り、左右にゆらゆらと揺れている。

ヘッドホンから漏れているのは BLANKETY JET CITY の Camaro。

空を見上げていた。

今夜は満月。

夜空に蒼白く浮かぶ月に向かって彼は煙草の煙を吐いた。

彼の名前は圭吾。

19歳、体格は割とがっちらりしてるので顔は至って普通。

成り行きで付き合つことになった亜美という彼女がいた。

そして馬鹿だった。

生きる意味を履き違えて努力もせずに結果だけを求め、自分で勝手に世の中に失望していた。

自分は人とは何かが違い、それを認めてくれない世間が悪いと思いつ込んでる彼は音楽こそが、ROCKこそが自分を狂った世界から離れて生を実感させてくれると信じて止まなかつた。

圭吾は幼少時から親の影響でビートルズやストーンズを聴いていたが、小学校の時にテレビで観たBLANKETY JET CITY（以下BJC）に影響を受けてからはもっぱら邦楽ROCKを聴くようになつた。

その影響は凄まじく、圭吾の人生を大きく変えてしまつた。

普段の言動からそれは垣間見ることができ、学校などで圭吾は異質な存在として扱われていた。

だが彼自身は『異質』として扱われることにカタルシスを持つて何ら不満は無く、そんな彼を受け入れてくれる友人もいた。

楽しきりやそれで良い、そんなことを考えて遊んでるうちに高校生活が終わり、半ば一軒のような日々を送るようになつて半年。

近所の公園で煙草を吸つて、音楽を聴きながらぼーっとするのが日課となつていた。

曲が終わると吉田は煙草をもみ消して立ち上がり、家に向かって歩き始めた。

季節はもうすぐ夏だった。

## Rehearsal (前書き)

以前投稿してた話の少し設定変えて書き直しました。

## Rehearsal

狭く、無機質で、閉鎖的な空間。

耳を塞ぎたくなるような轟音の中で圭吾がマイクスタンドを掴んで歌っている。

端から見れば完全に発狂してしまったヤク中である。

圭吾は高校を卒業してからバンドを組んでいた。

バンド名は『Urban Midnights Strippers』（以下UMS）といい、今時には珍しく典型的な『ゴリ押しのジャパニーズロックをやるバンドで、音楽性としては日本脳炎や頭脳警察に似ていて、圭吾はボーカルとギターを担当している。

使用しているのはフロンドーダージャガー。

ZHRVANAのカート・コバーンやRed Hot Chili Peppersのジョン・フルシアンテが愛用しているフロンドーダージャガーの最高級機種である。

今日はUMSの練習日で圭吾は朝からスタジオに缶詰め状態だった。

「よーし。今日はそろそろあがろつか。」

リーダーでギタリストの千秋が声をかける。

圭吾は以前組んでいたバンドで音楽性の違いから楽しめていなかつた時に彼から誘われたのであった。

『デビューなんかしなくたって良い。身近な人達に大切なメッセージを送れる最高のバンドをやろう。』

千秋の想いや音楽性は見事に圭吾のそれと一致し、千秋が声をかけていた他のメンバーとトントン拍子でJMSの結成となつた。

「いよいよライブかー」

煙草に火を着けながら千秋が言つた。

スタジオの休憩室で練習後の一服を楽しむのがお決まりのパターン。

そしてJMSの初ライブが明日に迫つていた。

「俺、緊張してきたわ」と弱気なのはベースの雄二。

演奏中は他のメンバーを牽引するくらいのパフォーマンスを見せる

のだが普段はおどおどしている氣の弱い好青年なのだ。

「最高だよ！」のバンドは、きっと大丈夫。」

圭吾は本当に心から思っていた。

「客こいつぱに来るかな？やつぱ多こまうがテンション上がるよなー」

待ちきれない様子なのはアーティストの圭。

元吹奏楽部の彼はパワフルかつ基本に忠実で正確無比なアーティシングをする。

圭吾、千秋、雄一と自由奔放にプレーする3人の演奏が一つにまとまって成り立つのは尚のテクニックによる部分が大きかった。

「それじゃあ明日頑張ろつな。」

「「「おひ。」「」」

明日に誓いを立ててSUMIのメンバーはそれぞれの帰途についた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1017f/>

---

LAST RESORT

2010年10月11日13時03分発行